

研修報告書 No. 5

所 属：県外大学病院研修医

研修先：特定医療法人長生会 大井田病院

医療法人聖真会 渭南病院

宿毛市立 沖の島へき地診療所

今回私は5月30日より1ヶ月間高知県の大井田病院、離島の沖の島診療所、渭南病院で研修をさせていただきました。今まで高知県を訪れたことはなく、縁のない土地での研修と経験したことのない地域医療に不安はありましたが、1ヶ月間楽しく過ごすことができ、また非常に多くのことを学ぶことが出来たので報告させていただきます。

大井田病院では、午前は主に外来診療での処置や内視鏡検査、午後は乳幼児健診や地域包括センターやデイケアの見学、また今回初めての取り組みとして保健所へ実際に行き、直接お話を聴く機会もありました。私が小児科志望であることを考えていただいて、研修内容には乳幼児健診や小児科外来が多く含まれていました。乳幼児健診では、宿毛での3歳児、1歳未満の健診、また大月での1歳未満の健診を経験しました。どのようなコミュニケーションの取り方をすればご両親、子ども自身が安心して健診を受けることができるのか、また医療に関係なくご両親からは様々な質問があり、それに難なく対応する先生にどのご両親も全面的に信頼をおいている印象でした。小児科は分野だけでなく、幅の広い科であることを改めて痛感しました。また、重いアレルギーをもつ患者が保育園や小学校に通えるように、アレルギー症状が出たときの対応をシュミレーションし指導したことがあるとの話も聴き、とても感銘を受けました。

今回から取り入れていただいた保健所研修では、実例やちょっとした裏話も含めながら保健所の役割や医師と保健所との関わり方を学ぶことが出来ました。これは医師として必ず知っておくべきことですが、普段の研修では保健所と関わることはなく、その重要さを考える機会もありませんでした。実際に関わることができ、この経験が今後医師として間違いなく生かされると思います。

もう一つの貴重な経験としては、地震を想定した災害訓練を見学できたことです。院長はまだまだとおっしゃっていましたが、何年先にくるか分からない地震に対して様々な対策が着々となされており、訓練にも多くの病院が参加されていて自分の意識の甘さを感じました。今後関東での地震に対する訓練にも積極的に参加したいと思うきっかけとなりました。

2週目に2日間、離島の沖の島診療所での研修をさせていただきました。沖の島では、島民は約200人と少ないですが、みんなが家族のように仲がよく、とてもお互いを理解されている印象でした。訪れる前は、医療機器はほとんどなく聴診器一つで診療といったイメージでしたが、エコーやレントゲン、また簡易な電子カルテや遠隔診療もできるということを知り、とても意外でした。空いた時間には、小学校やドクターヘリの離着陸場を見学させていただくことも出来ました。

渭南病院では、腹腔穿刺や外来での縫合、関節注射などの手技やまた外来診療では自身で検査をオーダーし、薬を考えるとといったことまで一連の流れを経験させていただきました。そこで風邪へのアプローチの仕方、膨大にある薬の勉強の仕方、また検査も症状や疾患にあうことも大切だが、患者のニーズに合うことも大切であることを教えていただきました。また急性期病棟と療養型病棟があり、療養型病棟は2017年までに廃止するという方針になっているが、その存在は重要な役割を果たしており今後も必要不可欠ではないのかというのが正直な感想です。先生方は、虫垂炎や慢性硬膜下血腫の手術に入っていたかと思えば、外来では創傷処置や骨折、虫刺症、病棟では脳梗塞や心不全の患者を診察しており、その幅の広さには驚きました。

指導医の先生方は、それぞれ違うキャラクターをもっていましたが共通して優しく接しやすく、また地域医療とはどういったものかを熱く指導していただき、地域に対する強い思いも感じ取ることができました。将来、私も出身である山口県で地域医療をしていく可能性は高く、今回の経験を生かしていきたいと思います。